

1 出典：戸谷洋志『悪いことはなぜ楽しいのか』

問一は三行記述問題です。傍線部(1)より、「復讐」が「どこか甘美な側面も含まれている」ということの理由を説明します。直後に「苦痛と快楽、その両方が含まれている」とあり、この内容が最もよくまとめられているのが第五段落です。そこからまとめ、「軽蔑してきた相手に怒り、復讐しようと欲求するとき、その気になれば復讐できるだろう、具体的にこういう行動をすれば復讐できるだろうと期待し、その過程で快楽を感じるから。」という説明が正解です。

問二は選択肢問題です。傍線部(2)より、「イワン」は「アレクセイ」より「はるかに傷ついている」かもしれない最もふさわしい理由を一つ選びます。正解はイです。ア「正反対の概念を同時に成り立たせなければならず」、ウ「人間の心理を説明することに成功したが」、エ「アレクセイの心の強さに苦悩し、…」、がそれぞれ誤りです。

問三は三行記述問題です。傍線部(3)より、アリストテレスによる「復讐」についての考えをまとめます。傍線部(3)の内容は「目には目を、歯には歯を」という同害報復では「復讐の限界を正しく示すことはできない」ということなので、「復讐の限界を正しく示す」ためにはどういうことが必要か、ということの説明をします。62行目～75行目の内容がそれに当たります。従って「単に同じ行為をやり返すだけでは正しい復讐にはならず、復讐行為自体がお互いにとって同じ価値であるかの調整を図ること」という内容、そしてそれは「比例関係に基づく正義」と言います。これらをまとめれば正解になります。アリストテレスの「復讐」に対する考えですが、傍線箇所に対応した内容を書くことが求められています。そのあとの話題で「貨幣」が出てきますが、ここ(問三)での記述は「貨幣」の前段階、すなわち「比例関係に基づく正義」が中心になります。

問四も三行記述問題です。傍線部(4)は「正しい復讐ができない」という問題を解決するためにアリストテレスは「貨幣」をとりあげた、という内容なので、そのことが書かれた98行目～109行目までの内容をまとめて正解となります。すなわち「比例関係において等しい物や事がない場合でも」「すべての人間に対して共通の価値の尺度である貨幣によって復讐行為の価値を金額に換算」「それを相手に請求すれば正義にかなう」といった内容を書けば正解です。問三と同様にアリストテレスの「復讐」に対する考えですが、ここでの記述は傍線部(4)に沿って書くので、「貨幣」が用いられるべきことが中心になります。

問五は空欄補充の選択肢問題です。 (5) に入れる表現として最もふさわしいもの一つを選びます。直前に「その相手にそれ以上の復讐をすること」とあるので、ア「かえって正義に反することになります。」が入ります。

問六は選択肢問題です。傍線部(6)では、損害賠償という考え方だけでは復讐心に対する適正な限界を設けることができないと述べられています。そしてその理由は「失われたもののおかげがえのなさ」、つまり「子どもに対する残虐な仕打ち」や「人命」(を奪うこと)、それを共通の尺度によって評価することは、そもそも「かけがえのなさ」を否定することになるからです。従って正解はウです。ア「適正な限界を冒瀆してしまう」、イ「キリスト教がこの事態を回避することができた」、エ「私たちで見つけ出す必要がある」、がそれぞれ誤りです。

問七は接続語問題です。選択肢の四つの語が必ず一つずつ対応します。Aは原因・理由説明の「なぜなら」、Bは順接の「だから」、Cは逆接の「しかし」、Dは仮定の「たとえ」がそれぞれ入ります。

問八は漢字問題です。ア「意地悪」、イ「達成」、ウ「算段」、エ「収集」、オ「原理」です。楷書で丁寧を書く練習を日頃からしておきましょう。

問九は内容一致問題です。正解はエです。これは本文 29 行目～32 行目の内容に対応しています。ア「復讐は…せめぎ合っているが、…その時、…『貨幣』が力を発揮する」、イ「…苦痛と快樂の両方が含まれているため、禁じられた心の持ち方だが」、ウ「…比例関係に基づく正義によって果たされなければならないという理由でキリスト教はそれを禁じた」が、それぞれ誤りです。

## 2 出典：友井羊『映画化決定』

問一は三行記述問題です。傍線部(1)より、「客観的に考えれば、受けない理由はない」にもかかわらず、「ぼく」はなぜ「ハル」からの映画化の依頼を断ったのかをまとめます。五行目に「自分の作品じゃないから」があります。これを受けて 8 行目～25 行目までの内容を書きます。「自分の作品じゃない」と考える理由、すなわち「小学生のときに描いたもの」「『春に君を想う』の存在は必然的に(家を出た)父さんを思い出させる」「今でも『春に君を想う』を超えられていない」「昔の自分に嫉妬している」まで書いていけばよいでしょう。

問二は選択肢問題です。傍線部(2)の「ハル」が「わたしの映画、観たことないよね」と言った理由の説明として最もふさわしいのは、エです。「ハル」は自分の映画作品に自信があるため、映画化の依頼を「断る」というのはおそらく映画を観ていないからだ、一度でも観たら映画化したくなるはずだ、と考えています。アは単なる一般論です。イは文脈がそもそもありません。ウは「内容的に相性がよいこと」というのが誤りです。

問三も選択肢問題です。傍線部(3)「問題は他にあった。」と「ぼく」が言う理由説明として最もふさわしいものを一つ選びます。直後に「家に誰もいないんだけど」と「ぼく」が言うと、「ハル」は「だから何？ ああ、楽しみだなあ」と返しています。103行目では「ハルは全く気にしていない様子だ。気を遣うほうが馬鹿らしい。」とあり、また116行目に「女子を部屋に招くのは杏奈にマンガを貸す時くらいなので、さすがに緊張してしまう。」とあります。これらから「ぼく」は「女子」の「ハル」を、「家に誰もいない」中で呼ぶことに(男子として)気を遣っていたことがわかります。従って正解はアになります。イ「『ハル』を呼ぶことに以前から抵抗を感じていたため」、ウ「実際にはまだ部屋の準備ができていなかった」、エ「気を遣わなくてはならないとは思えず、…」、がそれぞれ誤りです。

問四は三行記述問題です。傍線部(4)から、「ぼく」は「ハル」の映画に感動し、興奮しているのがわかります。「時間を忘れるほど魅力的な『ハル』の映画」、それは漫画家志望の「ぼく」からすれば「大好きなマンガを読んだときのような感動を覚える」「その映画を作った監督の『ハル』に深く尊敬の念を抱き、興奮している」といった内容をまとめます。

問五は選択肢問題です。傍線部(5)は「ハル」が真剣に「ぼく」の最新作と自信作の原稿を読んでいる様子を表していますが、その後どのような感想を「ハル」は持ったかの説明として最もふさわしいものを一つ選びます。正解はイです。ア「同一の作者だとはどうしても信じられなかった」、ウ「技術的な拙さは否めないと映画化を断らざるを得なかった」、エ「新作マンガには『ハル』の足りないところがある」、がそれぞれ誤りです。

問六は三行記述問題です。傍線部(6)より、「ハル」の心情をまとめます。「力いっぱい拳を握りしめた」から、「ハル」の憤りや怒りや悔しさが読み取れます。「ハル」は自分の映画監督としての実力には自信をもっていますが、『春に君を想う』には自分に足りないところ(魅力)があると言う通り、まだ自分の力不足を認識しています。だから「ぼく」に「あんたは天才なんだろう？自分で好きに脚本を書いて、思うように映画を撮ればいいじゃないか！」と決めつけられたので、憤っているのです。163行目「…天才なんかじゃない」という「ハル」の台詞にも表れています。

問七は語句問題です。「息が  (ひどく緊張する)」は「つまる」、「息が  (一つのことをずっと続ける様子)」は「ながい」、「息が  (それ以上続けられなくなる)」は「きれる」、「息を  (生き返る)」は「ふきかえす」、「息を  (ほっとする、一休みする)」は「つく」、がそれぞれ入ります。

問八(一) 傍線部 B 「ドタバタ」という語の本文での意味をア～エの中から一つ選びます。正解はウです。滑稽に暴れまわったりするコメディのことを「ドタバタ劇」と言います。(二)は擬音語・

擬態語等の語句問題です。Ⅰは「バチバチ」、Ⅱは「ぶらぶら」、Ⅲは「べたべた」、  
がそれぞれ入ります。

問九は内容一致問題です。正解はウです。118行目～129行目の内容がそれに相当します。アは「信じることができず、議論は平行線のままだった」が誤りです。イは「小学生時代に描いたことに違和感をもっており」は心情的には性質の異なるものです。「…父親の家出と深く関係していると気づき始めたため、やはり断った」というのも事実に反します。よって誤りです。エは前半部は正しいのですが、後半部の「『ハル』の鋭い観察力に感心し、尊敬の念を抱くようになった」は明らかに誤りです。